

国語科学習指導案

授業日時 2019 年 月 9 日 (月) 第 5 校時
 授業学級 2 年 C 組男子 名女子 名計 名
 授業会場 2 年 C 組教室
 授 業 者
 指導教員
 指導者

1 単元名 「方言と共通語」

2 主眼

方言が今も残っている理由を考える場面で、長野県の方言を共通語に直して説明することを通して、方言が地域や風土を細やかに表現できることや自然や季節の変化を繊細に表現できることなどの良さを知り、日常で何気なく使っている言葉に立ち返り、より方言に親しむことができる。

3 本時の位置 (全 1 時間中第 1 時)

〈前時〉
 〈次時〉

4 指導上の留意点

- ・ 共通語と方言の特徴をどちらもおさえる、互いに良さがあことに気づけるようにする。
- ・ 教師が授業の最初に三重弁を用いた自己紹介をして、方言に対する意識付けを高められるようにする。

5 展開

過程	学習内容【学習形態】	予想される生徒の反応や意識(◎)	支援(・)評価	時間
導入	1. 三重弁クイズをし、思ったことを発表する。【全体】	◎「けったで行く」→乗り物かな。 ◎「とごる」→にごってる？ ◎「机をつる」→持つとかかな ◎「えらいから休む」→「方言？」 ◎「ささっての予定」→「あさって？」 ◎聞いたことがない。 ◎いろんな表現があるな。 ◎イントネーションが違う。	・ 具体的な文脈から未知の言葉の意味を想像させる。 ・ 三重弁クイズによってより強く方言を意識させる。	8
	2. 鹿児島弁で作られた桃太郎の映像の一部を、字幕ありと字幕無しで見る。【全体】	◎話し方が私たちと違っていて面白い。 ◎同じ日本語でも、分からない言葉があったりする。 ◎鹿児島に行ったら困りそうだな。	・ 映像を視聴し、「日本語だけどみんなの普段の話し方と違いますか」と尋ねることで、方言に地域性があるというイメージを想起させる。 ・ 方言を用いて例文を提示し、同じ日本語でも方言が使われていると分からない表現や単語があることを確認することで、より方言に興味を持てるようにする。	5
	学習問題：方言はなぜ今も残り続けているのだろうか。		◎何か残しておいて良いことがあるのかな ◎その方言でしか表せない言葉があるんじゃないかな。	・ 「何でだと思う？」と尋ねることで、方言が残る理由に意識を向けられるようにする。

		学習課題：長野県の方言を共通語に直してみよう。		
展開	3. 長野県の方言を出し合い、それらを共通語に直して説明する。 【個人→全体】	◎「ぼける」「雪が舞う」とかも方言なんだ。 ◎長野県でも聞いたことがない方言もあるな。 ◎「ずく」の表現って共通語だとしっくりこないな。 ◎この言い方でしか表せないね。 ◎この言い方は長野県ならではのものだったんだ。	・何気なく使っている言葉でも、実は方言なのかもしれないという考えを促す。 ・出た方言が共通語とどう違うかを語尾、単語、イントネーションなどの観点から簡単に整理する。 ・生徒から出なければ教師が提示する。 ・方言を出し合い、板書したり問い返したりすることで、全員に共有する。 ・「ずく」「ぼける」「雪が舞う」などの共通語で説明しにくい方言を扱うことで、方言の独自性に気づかせるようにする。 ・方言を共通語に置き換えることの難しさを意識させ、意味の面から方言の必要性を感じられるようにする。	7 12 12
	4. 方言について、気がついたことや思ったことを書く。【個人】	◎方言は、その土地でしか使われないけど、だからこそ残っている意味があるのかもしれないな。 ◎共通語はどこでも通じるけど、方言は通じないところもある。	・「なぜ独自の方言が生まれたか」と問うことで、方言が使われていることの意味を考えられるようにする。 ・イントネーション、意味、風土など様々な面から他の方言や共通語との比較をするなどして、書く際の視点をいくつか提示する。 活動を通して方言の良さや必要性に気づき、共通語と方言を比較しながらワークシートに書けているかを評価する。	
終末	5. 本時の振り返りをする。	◎日常で何気なく使っている言葉も方言だということが分かった。	・「方言って、他地域の人からしたら分からない言葉だけど、大切なものなんだね。」	6